

あいち農産物生産流通レポート

令和元年11月号

	ページ
◎ 地域トピックス	
・ 2つのパワーアップ事業で江南市の越津ねぎ産地が パワーアップ！	(尾張農林水産事務所) 1
・ 常滑市で「令和元年度あいちのいちじくコンテスト」開催	(知多農林水産事務所) 2
◎ 東日本情報	
・ いちじくによる手作りマルシェ「いちじくいち」	(東京事務所) 3
◎ フラワーページ	
・ 北京国際園芸博覧会におけるあいちの花のPRについて	(園芸農産課) 5
・ 神奈川県でクイーンズカップが開催されました	(東京事務所) 7
◎ 青果	
・ 愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	9
・ 名古屋・東京市場における青果物の11月の見通し	10
◎ 花き	
・ 切花・鉢花の11月の見通し(県内市場)	22

※今月、「情報サロン」、「西日本情報」はありません。

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課 (052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ (03)-5492-5400

平成29年4月号から、「全国における主要農産物の輸出入実績」、「関連指数」のページはなくなりました。
それぞれの情報につきましては、

【輸出入実績】

農林水産省ホームページ内「農林水産物輸出入統計」
<http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/kokusai/index.html>

【消費者物価指数】

全 国：総務省統計局ホームページ内「消費者物価指数月報」
<http://www.stat.go.jp/data/cpi/>
名古屋：愛知県県民生活部「名古屋市消費者物価指数」
<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/toukei/bukka.html>

【農業物価指数】

農林水産省大臣官房統計部「農業物価統計調査」
<http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/noubukka/>

【名古屋市小売価格】

総務省統計局「小売物価統計調査」
http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020101.do?_toGL08020101_

を御覧ください。

2つのパワーアップ事業で江南市の越津ねぎ産地がパワーアップ！

尾張農林水産事務所

江南市で多く栽培されている「越津ねぎ」は、葉ねぎと根深ねぎの中間種で、葉が柔らかくて白茎と両方を食べることができ、「あいちの伝統野菜」に選ばれています。

しかし現在、生産者の高齢化が進んでおり、将来作付面積が大幅に減少することが危惧されるため、平成29年度に尾張地域プロジェクトチームを設立し、関係者で検討を重ね、平成30年3月に産地戦略を策定しました。この産地戦略を基に、JA愛知北を中心に関係機関が一体となって産地を維持発展させる様々な取組を行っています。

1 農業生産力パワーアッププロジェクト推進事業による栽培試験

平成30年度には、農業生産力パワーアッププロジェクト推進事業により、越津ねぎを使った青ねぎ栽培試験と販売形態の検討を行いました。青ねぎ栽培は、長ねぎ栽培に比べて重労働である土寄せが不要になるだけでなく、栽培期間を短縮することができます。従来は越津ねぎの出荷がない夏場に青ねぎを出荷することで、年間を通した「越津ねぎ（長ねぎ+青ねぎ）」の出荷が可能であることが実証されました。また、出荷された青ねぎは、青ねぎ専用品種のものより柔らかく、市場からの評価も上々でした。

2 あいち型産地パワーアップ事業による施設導入

今年度は、あいち型産地パワーアップ事業を活用し、以下の施設等を導入しました。

<導入施設等の概要>

①ねぎ保冷用冷蔵庫の設置

- ・冷蔵庫を導入することにより、週末需要に対応するなど高品質なねぎを出荷先の要望に応じて出荷できるようになります。

②青ねぎ栽培ハウスの設置

- ・栽培日数を短縮するとともに、品質の高い青ねぎを生産します。また出荷場に設置することで展示ほの効果を持たせて、地域への普及を図りました。

③ねぎ収穫機の導入

- ・作業効率の向上が図られ、意欲と能力のある主要な担い手が規模拡大を目指すことができます。



青ねぎ栽培ハウス



ねぎ収穫機

以上の2つのパワーアップ事業を活用したことで、越津ねぎ産地の維持発展を目指す基盤を整えることができました。今後も、担い手の確保・育成・定着、省力栽培技術の導入・普及、越津ねぎの認知度向上と消費拡大など、様々な取組によって越津ねぎ産地をパワーアップしていきます。

常滑市で「令和元年度あいちのいちじくコンテスト」開催

知多農林水産事務所

令和元年8月26日（月）に常滑市のあいち知多農業協同組合総合本部において、「令和元年度あいちのいちじくコンテスト」が開催されました。いちじくコンテストは県内産地の持ち回りで毎年開催されます。今年度は知多農林水産事務所管内が当番地区で4年ぶりの開催となりました。

1 あいちのいちじくコンテストについて

「あいちのいちじくコンテスト」は、愛知県、愛知県経済農業協同組合連合会、愛知県果樹振興会が主催する「あいちのフルーツコンテスト」の一環として、毎年、露地いちじくの出荷最盛期を迎える8月下旬に開催されています。

本県のいちじくの主力品種は西三河地区が主産地の「柘井ドーフィン」と知多地区が主産地の「サマーレッド」の2品種で構成されており、今年度は合計235点が出品されました。コンテストでは、品種に関係なく同一条件で、糖度、外観を中心に審査が行われました。

また、コンテスト終了後には、イオンモール八事店において販売促進イベント「いちじくフェア」も開催され、コンテスト上位入賞品を中心とした販売や愛知県産いちじくのPRが行われました。



いちじくコンテスト会場風景

2 表彰

農業総合試験場担当者を中心に構成された審査員による審査が行われ、農林水産大臣賞、農林水産省生産局長賞、東海農政局長賞、愛知県知事賞を始めとした計19点の特選が選出され、次いで51点の入選が選出されました。

愛知県は全国シェア27%を誇る全国一のいちじく産地で、知多地区では近年、空港が近い立地を活かした輸出にも積極的に取り組んでいます。



審査員による審査の様子



農林水産大臣賞受賞品

いちじくによる手作りマルシェ「いちじくいち」

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

10月5日（土）、6日（日）の2日間、秋田県にかほ市において、いちじくのイベント「いちじくいち」が開催されました。「いちじく栽培の北限」を売り文句に、いちじく愛溢れる有志が手がける手作りのお祭り、特異な場所でのユニークな取組を紹介します。

1 北限のいちじく産地

にかほ市は秋田県の南部、山形県と隣接する地域に位置し、40戸ほどがいちじく栽培を行う産地となります。品種は小玉のホワイトゼノアで、主に甘露煮などの用途向けで出荷されます。榊井ドーフィンやサマーレッドのような生食前提ではなく、甘露煮など加工用として近隣の「道の駅」などでも比較的硬めの果実が袋詰めにした形態で販売されます。秋田県内で消費されるいちじくの9割を占める産地であり、商業目的のまとまった栽培(産地)としては「北限」の地とのことです。

(参考資料：仁賀保高校文化祭、地域研究展示)



「いちじくいち」ポスターより

2 いちじくだらけのマルシェイベント

「いちじくいち」は、いちじくを軸（メインテーマ）としたマルシェ型イベントです。昨年廃校となった旧にかほ市立上郷小学校を利用した会場には、にかほ市を中心に県内外から40以上の業者や団体が出店し、体育館や教室、理科室などに配置したブースでは、いちじく料理やいちじくに関連したTシャツ、アクセサリなどのグッズが販売されました。運営は生産者中心ではなく地域有志などが行います。

会場では、いちじく販売や甘露煮のワークショップ、各種イベントが開催されたほか、生食でいちじくを食べる機会の少ない地域の人のために、完熟収穫したホワイトゼノアが期間限定で提供される「いちじくパーラー」など、いちじくやそれに関わる人達、産業を多方面（生産、加工販売、地域など）から認識できる場にもなっています。



体育館のフードコート



教室でのブース販売風景

3 いちじくいちの目的

「いちじくいち」は、いちじくで地域を活性化することを目的に3年前から始まり、今年で4回目となります。地域で甘露煮等のいちじく加工を担う商店と、秋田市の地元情報(魅力発信)誌を編集する会社を中心となり、「北限のいちじくを軸(じく)にして、身の丈の豊かさを考えられる市(いち)」として開催されています。

この時期、地域のいちじく収穫は終盤を迎えており、いちじくの即売会は毎年各家庭で作られる甘露煮の材料を確保する機会にもなっています。地域の「いちじくのある風景・風物詩」を感じることができ、主催者の目指す「身の丈にあった暮らしを見つめるきっかけ」にも繋がっているようです。



甘露煮等の材料となる生イチジク



完熟イチジクと甘露煮(販売品)

4 自立する手作り行事

「いちじくいち」は補助金などの公的な資金に頼らず運営されており、グラウンド整備、校舎清掃、シャトルバス運行費などの運営費には、会場を飾る名前入り提灯の売上(スポンサー料)や来場者が決める退場料(寄付に相当)などが充てられます。このことは公式HPやポスター等にも前面に提示されており、ボランティアや市、地元高校の協力も得て、地域や来場者と一緒に支える手作り行事として確立されています。これらの手法は、今後消費地や有志が農産物等の魅力発信を行う際に、貴重な先事例として参考になると思われます。

にかほ市の人口は約2万5千人ですが、前年の「いちじくいち」の来場者数は2日間で延べ5千人にのぼったとのこと。市内の人々だけでなく、市外や県外からも出展販売や来場客があり、出店者や来場者がそれぞれの経済に繋げながら、しっかりと土地に根付いたイベントになりつつあります。



シャトルバスの協力(市)



マスコットが人気のTシャツ店

北京国際園芸博覧会におけるあいちの花のPRについて

園芸農産課

今回、中華人民共和国北京市延慶区で開催された2019年北京国際園芸博覧会（以下「北京国際園芸博」）に、県は農業団体等と実行委員会を組織し、県内の花きを使ったPR出展を行うとともに、県などの育成品種「かがり弁ぎく」を博覧会協会が実施した菊の新品種コンテストに出品しました。また、今回の出展に併せて北京国際園芸博の会場や北京花郷花木集団（花郷花卉市場）の視察も行いましたので、報告します。

1 北京国際園芸博について

北京国際園芸博は、国際園芸家協会及び国際博覧会事務局認定のA1クラスの国際園芸博覧会です。北京市延慶区で「緑色生活美麗家園（仮訳：緑の生活より良い生活）」をテーマに、2019年4月29日から10月7日（162日間）まで開催され、105カ国、13国際機関が参加しました。

2 愛知県の出展について

(1) 出展時期

2019年9月14日（土）から9月27日（金）まで14日間

(2) 出展場所

北京国際園芸博会場 日本展示館メイン展示スタンド（約35㎡）

(3) 出展者

北京国際園芸博覧会出展愛知実行委員会

（構成：県、県中央会、県経済連、県花き連、豊明花き（株） かがり弁ぎく（黄）

(4) 出展内容等

出展テーマを「花鳥風月」とし、花をアレンジした水槽を配置し、照明や音楽を用いて花・水・光・音のシンフォニーを演出しました。また、展示期間が「秋」であることから「日本の紅葉」を表現しました。花材は愛知県産を中心に中国で人気の高い「きく」、輸出の可能性が高いグロリオサ等を使用しました。

出展初日には県（森岡副知事）、農業団体の代表者（中央会前田会長、経済連白井会長、県花き連高瀬会長）によるオープニングセレモニーを行いました。出展期間中の日本展示館の来場者数は約10万人と大変にぎわい、来場者はアレンジの写真を盛んに撮っていました。

また、出展期間中に行われた新品種コンテストでは、かがり弁ぎく（黄）が金賞、かがり弁ぎく（白）が銀賞を受賞しました。



愛知県の出展「花鳥風月」



テープカットの様子

3 北京国際園芸博の会場及び延慶区の花き事情について

北京国際園芸博会場は、大阪花博の約7倍の960haと広大で、その大部分を占める中国庭園はサルビアやマリーゴールドなど、赤や黄色を中心に中国で縁起が良いとされる色で彩られているところが多く、日本では9月に使わないポインセチアも見られました。中国庭園の基本は池と東屋が定番で、これに、鑑賞石や盆栽が組み合わされ、花はそれらに添えられる扱いとなっていました。また、500㎡を超える立体花壇も随所にみられました。

会場周辺の延慶の街では、路上で野菜や果物の販売が行われていましたが、一般の人が生花を購入する場所はほとんどみられませんでした。北京国際園芸博会場や政府庁舎、周辺道路、公園では多くの花が植栽されているものの、延慶区ではまだ個人が花を購入して楽しんだりする余裕はほとんどないと思われました。



中国庭園



中国館



立体花壇

4 北京花郷花木集団（花郷花卉市場）について

花郷花卉市場は、北京市南西部に位置する鉢物を中心とする約10,000㎡の相対花卉市場で、この他切花や花き関連資材等も販売されています。市場のある北京市豊台区は、清朝の時代から宮廷で飾る花の生産を行ってきた花卉生産地で、地域全体の地名として「花郷」と呼ばれ、周辺には複数の花卉市場があります。

この市場内には、面積は小さいものの、愛知豊明花き流通協同組合の店舗があり、見本市として機能していました。中国での販売は、大部分がネットを通じて行われるため、面積は小さくとも支障なく取引していました。ここでは、現在の日本では取扱いの少ない大型観葉植物などのニーズがあることや、生活水準の向上により花の需要が高まり、販売が伸びていくことが、日本から店舗を構える動機となっています。



市場内の大型観葉植物



観賞用生物等も販売



愛知豊明花き流通協同組合の店舗

神奈川県でクイーンズカップが開催されました

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

令和元年10月19日（土）から20日（日）にかけて、「かながわ花フェスタ 21 第11回フラワーデザインコンテスト クイーンズカップ」（主催：かながわ花フェスタ 21 クイーンズカップ実行委員会）が、神奈川県横浜市のクイーンズスクエア横浜で開催されましたので、概要を紹介します。

1 クイーンズカップとは

クイーンズカップは、神奈川県内最大のフラワーデザインコンテストです。「フレッシュフラワー部門」、「プリザーブドフラワー部門」のほか、今年から新たに加わった「学生部門」の3部門で競技が行われました。

会場では作品の展示がなされたほか、「フレッシュフラワー部門」及び「学生部門」では、持ち込み作品で予選を勝ち抜いた参加者がステージ上でハロウィンをテーマにアレンジメントを行うファイナル競技も行われ、たくさん見物客が熱の入った競技に見入っていました。

なお、このイベントにはJAひまわりバラ部会も協賛しており、会場ではJAひまわりの紹介もされていました。



フレッシュフラワー部門ファイナル競技



JAひまわりの紹介

2 他にも花に関する企画が開催

このイベントでは、フラワーデザインコンテストのほかにも、コサージュづくりなどの体験企画や台風15号で被災した千葉県の花き生産者を支援しようと、チャリティーでの花束販売が行われていました。また、花キューピットかながわの全加盟店が「開店祝いの花」をテーマにした作品を展示し、人気投票コンテストが開催されました。こちらにも多くの方が並び、それぞれの展示作品を見比べていました。



「開店祝いの花」の作品展示

クイーンズカップは商業施設の中で行われるため、イベントの開催を知らない人も興味を惹かれて立ち寄る姿が見られ、多くの人々に花きのPRができていると思われました。こうしたイベントを通じ、花の魅力が広く伝わることを期待されます。

愛知産青果物の動向

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

前年並 : ±1%台以下
 わずか : ±2%台
 やや : ±3～5%台
 かなり : ±6～15%台
 大幅 : ±16%以上

○ 名古屋中央卸売市場（品目：ぎんなん）

	入荷量 (t)	卸売価格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)	
		うち愛知産	愛知産		
30年実績	74	74 (99%)	1,053	1,049	— — —
元年見通し	110	—	850	—	
概要と見通し		卸売市場から産地への要望・提言等			
<p>前年は夏の高温干ばつと9月の台風被害で入荷量が大きく減少したが、本年は久寿が平年を上回る入荷状況で、後半の主力となる藤九郎もここまで概ね前年並の入荷となっている。藤九郎はやや着果がよくないとの話も聞かれるが、11月前半は前年より多く、下旬からは例年を下回る数量となる予想で、11月全体では前年並の入荷量か。入荷量は不作となった前年を大幅に上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>		<p>居酒屋の減少や家庭で茶碗蒸しを作る機会の減少等により、ぎんなんの需要は縮小傾向となっている。ぎんなんは愛知の特産品で、全国一の生産地でもある。全国的な産地として、調理方法の提案や効果効能の周知など、積極的なPR活動を行い、ぎんなんの需要拡大に向けた取組を進めてほしい。</p>			

○ 東京都中央卸売市場（品目：カリフラワー）

	入荷量 (t)	卸売価格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)	
		うち愛知産	愛知産		
30年実績	3,397	179 (5%)	276	273	茨城(15%) 長野(15%) 埼玉(12%)
元年見通し	3,200	—	290	—	
概要と見通し		卸売市場から産地への要望・提言等			
<p>愛知産の入荷は10月から始まり、例年、厳寒期の12月～2月にピークを迎える。今年の平均価格は、相次ぐ台風の影響か10月中旬より上昇に転じている。前年も10月に台風が来襲したが、その後の好天と暖冬で回復著しく豊作基調となった。本年も前年に近い状況で、11月以降の気温や天候次第で、相場の展開が分かるとみられる。入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をやや上回る見込み。</p>		<p>業務色が強い品目のため、引き続き8玉中心での安定出荷をお願いしたい。また6玉の需要も高まっており、同様に安定した出荷を望む。暖冬などの事態に備えて、週間提案の販売も考える必要がある。来週、再来週の情報を正確に教えてほしい。 また、ロマネスコや色付きはクリスマス前の1週間が需要ピークで、これに応じた出荷を心がけてほしい。特に色付きは発色が評価されるため、選別の強化を図ってほしい。</p>			

名古屋・東京市場における青果物の11月の見通し

名古屋市中央卸売市場

10月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	26年	32,804	233	230	242	北海道	31%
	27年	35,109	177	177	162	茨城	18%
	28年	31,265	267	277	236	愛知	14%
	29年	34,397	236	237	232	長野	9%
	30年	34,369	214	211	191	青森	4%
	5ヵ年平均	33,589	225	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	元年見通し	33,700	197	—	—		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>北海道、愛知、茨城などが中心となる。東日本中心に台風19号の被害があったが、関東産地への影響は少ない見通し。北海道や愛知、西南暖地でも作柄が良好な品目が多く、価格は安値推移が予想される。入荷量は前年並で、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>							
だいこん	26年	2,075	61	63	64	千葉	46%
	27年	2,210	60	81	50	愛知	32%
	28年	1,830	145	157	116	青森	13%
	29年	2,024	118	103	137	北海道	3%
	30年	2,273	68	84	61	新潟	2%
	5ヵ年平均	2,082	88	96	92	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	元年見通し	2,000	96	120	100	70	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>愛知、千葉を中心に、青森などから入荷する。愛知は作付面積が若干減少しているが、作況は順調で、潤沢な入荷を見込む。千葉は台風の影響で、入荷の本格化がやや遅れ込むが、その後は順調か。入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>							
にんじん	26年	1,907	90	79	91	北海道	47%
	27年	1,672	135	135	143	岐阜	15%
	28年	1,702	195	241	232	青森	14%
	29年	2,080	139	147	143	愛知	13%
	30年	1,515	174	235	160	長崎	6%
	5ヵ年平均	1,775	144	163	152	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	元年見通し	1,700	130	120	130	140	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>北海道を中心に愛知、青森などから入荷する。北海道は細物傾向で、天候不順により入荷減となった前年より多いものの、終了時期は平年より若干前倒しするか。愛知も前年少なかったが、本年は太物傾向。入荷量は前年をかなり上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>							

注) 「ねぎ」は「こねぎ」を含む。
「なす」は「長なす」と「べいなす」を含む。

東京都中央卸売市場

10月31日現在

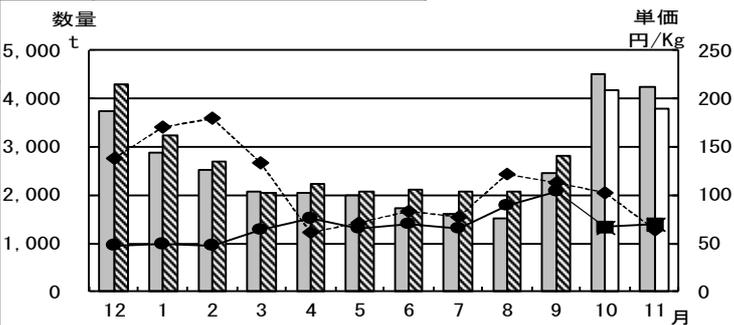
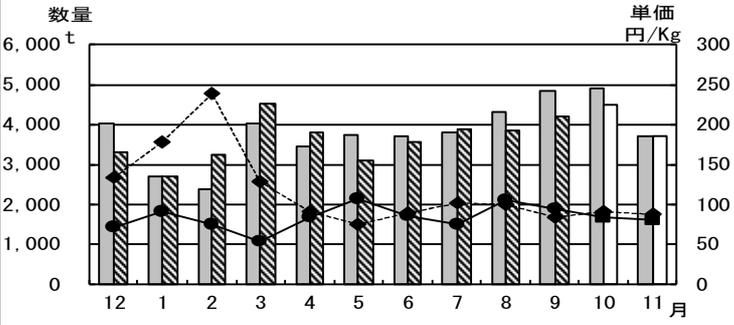
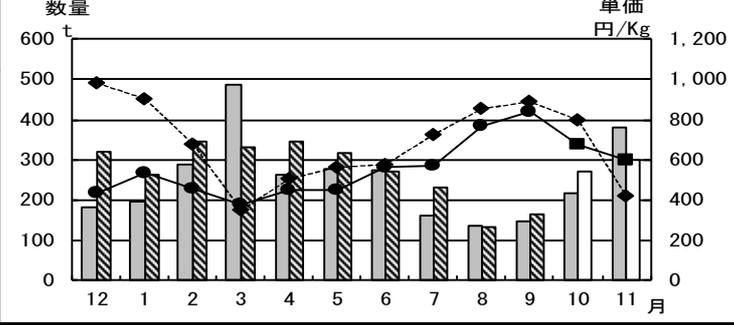
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	26年	126,336	196	189	191	211	茨城 22%
	27年	127,700	195	209	188	188	千葉 20%
	28年	120,580	290	310	295	266	北海道 16%
	29年	122,707	269	264	265	279	群馬 4%
	30年	126,889	224	248	215	207	青森 4%
	5ヵ年平均	124,842	234	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	124,000	230	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>10月の高温により潤沢な入荷が続く。台風や豪雨の被害が懸念されるも、今のところ入荷量等への影響は小さい。気温低下とともに入荷が落ち着き、滞荷気味の状況が改善されれば、価格の持ち直しもあるか。入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年をわずかに上回る見込み。</p>					
だいこん	26年	13,180	52	51	50	55	千葉 59%
	27年	12,726	54	71	51	41	神奈川 15%
	28年	12,485	124	141	136	95	青森 13%
	29年	11,497	105	89	105	123	茨城 8%
	30年	12,873	59	74	53	49	北海道 2%
	5ヵ年平均	12,552	78	85	78	71	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	12,700	70	70	70	70	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>千葉、神奈川からの入荷が中心となる。各産地とも一部では台風被害の報告があるが、数量への影響は限定的と予想される。今後、生育遅れや蒔き直し等の影響が出るかは今のところ不明。入荷量は前年並となり、価格は暴落した前年を大幅に上回る見込み。</p>					
にんじん	26年	7,883	85	78	89	89	千葉 53%
	27年	7,686	124	121	133	120	北海道 23%
	28年	6,912	211	233	227	180	青森 11%
	29年	7,165	137	130	146	134	埼玉 5%
	30年	7,182	177	220	185	131	中国 3%
	5ヵ年平均	7,366	145	154	154	129	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	7,500	100	105	105	90	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>千葉、北海道からの入荷が中心となる。終盤を迎える北海道は太物が多くなる。千葉は台風被害からの回復を見込むが、下位等級の増加に懸念が残る。全体では入荷量は確保されるも、価格は下がるか。入荷量は前年をやや上回り、価格は高値となった前年を大幅に下回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

10月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうとう	26年	3,658	40	38	43	42	茨城 62%
	27年	3,535	51	66	50	39	長野 25%
	28年	3,131	144	200	139	103	愛知 11%
	29年	3,906	105	82	108	128	岐阜 1%
	30年	4,255	64	83	62	48	北海道 1%
	5ヵ年平均	3,697	79	90	79	71	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	3,800	70	70	70		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城を中心に長野、愛知から入荷する。長野は暖秋傾向で平年より残量が多くなっている。茨城と愛知はともに順調で、茨城は11月上旬から、愛知は中旬から増量していく見通し。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年をかなり上回る見込み。</p>					
キャベツ	26年	3,749	63	55	61	78	茨城 40%
	27年	3,285	80	119	75	50	愛知 36%
	28年	3,130	178	248	184	121	長野 10%
	29年	3,711	111	102	111	120	群馬 5%
	30年	3,707	88	116	75	77	秋田 4%
	5ヵ年平均	3,516	102	124	99	89	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	3,700	80	80	80		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知、茨城を中心に入荷する。愛知の作付面積は前年並。台風被害も少なく、11月は順調な入荷を見込む。茨城も大きな台風被害は聞かれず、今のところ順調な入荷が予想される。 入荷量は前年並で、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
ほうれんそう	26年	311	465	453	452	520	愛知 48%
	27年	428	260	391	252	219	岐阜 29%
	28年	296	596	721	731	453	茨城 16%
	29年	162	969	1,086	955	892	長野 3%
	30年	380	424	533	357	397	群馬 2%
	5ヵ年平均	315	476	571	479	434	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	300	600	700	600	500	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>上旬は岐阜を中心に入荷し、中旬以降は愛知が増量する。岐阜は概ね平年並の入荷見通し。愛知も大きな台風被害もなく順調な入荷を見込む。前年は入荷増の単価安となったが、本年は平年並の入荷となるか。 入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

10月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)		
			上旬	中旬	下旬			
ほうき	26年	11,922	33	34	33	茨城	79%	
	27年	11,706	47	45	35	長野	14%	
	28年	14,560	116	114	85	群馬	4%	
	29年	15,800	81	78	104	北海道	2%	
	30年	15,001	51	43	36			
	5ヵ年平均	13,798	68	77	65	前年及び本年の 入荷量・価格の動き		
	元年見通し	15,500	55	70	50	45		
さい	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
	<p>茨城からの入荷が中心となる。台風15号と19号を乗り切った感はあるが、降雨が多く、今後の病害発生に懸念を残す。10月が暖かく推移したことで、生育は前進傾向。潤沢な入荷が見込まれる。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>							
キャベツ	26年	12,682	63	53	59	79	千葉	43%
	27年	13,583	83	114	81	57	茨城	23%
	28年	13,717	172	226	175	121	愛知	14%
	29年	14,193	105	96	101	119	神奈川	8%
	30年	15,335	84	103	73	75	群馬	5%
	5ヵ年平均	13,902	102	119	98	90	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	元年見通し	14,700	75	75	75	75		
べ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
	<p>千葉、茨城、愛知を中心に入荷する。雨を伴う台風で、塩害の発生は僅か。各産地とも気温が高く生育順調な上、終盤の群馬が遅れており、前年ほどではないにせよ、潤沢な入荷で苦しい展開が見込まれる。 入荷量は多かった前年をやや下回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>							
ほうれんそう	26年	1,610	426	413	382	499	群馬	44%
	27年	1,895	295	342	273	272	茨城	19%
	28年	1,292	612	689	674	501	千葉	10%
	29年	798	927	920	891	976	栃木	10%
	30年	1,846	363	434	301	357	埼玉	8%
	5ヵ年平均	1,488	463	502	439	457	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	元年見通し	1,500	500	580	490	430		
そ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
	<p>群馬、茨城など関東産地からの入荷がほとんどを占める。主力産地となる関東への台風上陸とその後の低温により、収量・品質への影響が懸念されるも、平年並の入荷は確保できるか。 入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>							

名古屋市中央卸売市場

10月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	26年	1, 213	288	271	280	330	長野 26%
	27年	1, 219	297	280	305	325	北海道 23%
	28年	1, 149	423	426	453	398	富山 10%
	29年	1, 194	426	433	401	457	秋田 7%
	30年	1, 144	379	424	360	351	鳥取 5%
	5ヵ年平均	1, 184	361	365	359	372	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	1, 200	370	380	370	360	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野、北海道、富山など各産地から入荷する。北海道、長野は台風被害もなく、順調な入荷見込み。富山は夏の長雨の影響で入荷量はやや少なくなるか。愛知は葉ねぎ中心の入荷だが、作況に問題はない。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をわずかに下回る見込み。</p>					
し	26年	1, 871	150	130	132	202	茨城 52%
	27年	2, 002	127	135	111	140	兵庫 30%
	28年	1, 612	290	317	290	261	愛知 7%
	29年	1, 279	439	434	366	535	長野 3%
	30年	1, 813	161	191	148	141	熊本 3%
	5ヵ年平均	1, 715	216	225	195	235	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	1, 700	150	170	150	130	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、兵庫を中心に、愛知などから入荷する。茨城は大きな台風被害も聞かれず順調。兵庫も平年並の見込みで、数量は十分にあるとみられる。愛知は作付面積が若干減少しているが、作柄は良好。 入荷量は前年をかなり下回るが平年並、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
きゅうり	26年	853	385	359	386	410	愛知 35%
	27年	941	291	255	258	386	群馬 20%
	28年	876	448	251	276	348	高知 15%
	29年	797	494	618	396	491	宮崎 14%
	30年	1, 111	324	356	299	321	山梨 5%
	5ヵ年平均	916	382	361	319	386	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	840	346	380	330	330	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知、群馬、宮崎、高知を中心に入荷する。現在入荷中の群馬や山梨の抑制産地、今後本格化する愛知や宮崎などの促成産地ともに順調。前年に比べると大幅な入荷減だが、平年作の順調な入荷を見込む。 入荷量は多かった前年を大幅に下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

10月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	26年	6,004	244	233	245	267	秋田 16%
	27年	5,598	279	273	277	287	青森 12%
	28年	5,178	349	368	372	310	千葉 9%
	29年	5,669	407	387	384	452	茨城 9%
	30年	5,680	353	400	326	332	新潟 8%
	5ヵ年平均	5,626	325	331	319	329	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	6,000	350	330	360	360	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>秋田、青森、千葉などからの入荷が中心となる。終盤となる東北産地は切り上がり早く、月後半は数量を減らし堅調な価格推移が見込まれる。各産地で病害虫の発生報告があり、今後に留意が必要か。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年並となる見込み。</p>					
し	26年	7,384	135	111	118	185	茨城 62%
	27年	8,563	117	128	94	132	静岡 20%
	28年	6,827	284	303	295	253	兵庫 4%
	29年	5,117	454	412	401	570	香川 4%
	30年	7,505	144	184	137	114	栃木 2%
	5ヵ年平均	7,079	207	211	191	226	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	7,100	140	150	140	130	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城を中心に、静岡などから入荷する。主力の茨城はピークを迎え、潤沢な入荷が予想される。各県ともに台風被害は少ないものの、一部で生育不良や大雨による冠水があった。ただし影響は軽微とみられる。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をわずかに下回る見込み。</p>					
きゅうり	26年	4,547	394	344	414	431	埼玉 25%
	27年	4,784	140	249	269	418	群馬 22%
	28年	4,432	449	500	460	391	宮崎 18%
	29年	4,507	476	546	394	491	千葉 10%
	30年	4,870	332	350	313	331	茨城 7%
	5ヵ年平均	4,628	355	395	368	411	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	4,700	350	370	360	320	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>埼玉、群馬から宮崎、千葉へと、関東内陸から西南暖地に産地の切り替えが進む。関東では秋口の出荷量が多くなっており、成り疲れの反動でやや量を減らすか。宮崎からは順調な入荷が見込まれる。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をやや上回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

10月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	26年	441	405	384	408	431	熊本 47%
	27年	469	346	335	347	365	愛知 40%
	28年	428	453	405	491	477	山梨 6%
	29年	363	507	513	513	501	高知 5%
	30年	474	404	427	387	397	群馬 1%
	5ヵ年平均	435	419	408	424	430	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	460	405	390	410	420	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本、愛知を中心に入荷する。両産地ともに作柄良好で順調な入荷を見込む。愛知は好天によりコナジラミが多かったことで落花が増え、やや出荷開始が遅れたほ場もあるが、全体的な影響は少ない。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年並となる見込み。</p>					
ト マ ト	26年	1,116	322	332	313	321	熊本 36%
	27年	1,361	267	336	261	219	愛知 26%
	28年	761	572	541	541	654	岐阜 17%
	29年	1,014	417	418	400	439	三重 13%
	30年	931	449	564	432	357	千葉 2%
	5ヵ年平均	1,037	386	422	371	373	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	1,000	400	450	400	350	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本、愛知などを中心に入荷する。10月は夏場の着花不良で前半に入荷減となったが、中旬以降の入荷は回復。11月は夏秋作が終了し秋冬作中心となるが、熊本と愛知ともに順調な入荷を見込む。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は高値だった前年をかなり下回る見込み。</p>					
ミ ニ ト マ ト	26年	355	658	702	628	613	愛知 45%
	27年	453	580	772	582	443	熊本 41%
	28年	276	1,122	1,126	1,087	1,150	宮崎 6%
	29年	360	779	832	714	791	北海道 4%
	30年	436	801	968	879	632	長野 2%
	5ヵ年平均	376	764	868	759	689	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	400	750	900	750	600	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知、熊本を中心に入荷する。夏秋作が終了し、10月後半から愛知と熊本の秋冬作が中心となる。ともに順調な入荷を見込むが、愛知では雨が少なくコナジラミの発生がやや目立つ。 入荷量と価格はともに前年をかなり下回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

10月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な	26年	2,346	379	320	361	492	高知 55%
	27年	2,600	343	311	354	371	福岡 12%
	28年	2,290	483	434	504	481	栃木 10%
	29年	1,906	580	605	579	553	群馬 8%
	30年	2,566	393	399	367	416	熊本 5%
	5ヵ年平均	2,342	427	404	424	456	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	2,300	400	400	400		
す	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>高知を中心に、福岡などから入荷する。終盤の関東産地から高知などの西南暖地に切り替わる時期となる。産地移行の端境で一端量を減らすも、中旬には再び増加すると見込まれる。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年並となる見込み。</p>						
ト	26年	5,649	343	335	333	364	熊本 31%
	27年	6,903	292	359	278	252	千葉 18%
	28年	3,912	624	589	605	690	愛知 13%
	29年	5,235	437	405	425	491	栃木 10%
	30年	5,024	465	544	463	397	茨城 7%
	5ヵ年平均	5,345	412	431	401	414	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	4,800	400	410	410	380	
マ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>熊本、千葉、愛知などから入荷する。一部施設の台風被害と、北日本産地の切り上がりで一時は相場が上向くも、後半は熊本などが増量して価格は下がる。年内が安値となる分、年明け後は価格が上向くか。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>						
ミニ	26年	1,686	572	608	544	563	熊本 31%
	27年	2,137	551	709	531	432	愛知 19%
	28年	1,216	1,061	1,072	1,009	1,099	千葉 11%
	29年	1,730	725	769	660	747	茨城 8%
	30年	1,803	761	924	813	590	静岡 6%
	5ヵ年平均	1,714	707	798	687	649	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	1,700	700	700	700	700	
ト	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>熊本、愛知、茨城などからの入荷が中心となる。愛知は天候不順の影響を受け、入荷量は平年より少なめとなる。熊本は8月の残暑により11月後半は数量が伸びないと見込まれる。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>						

名古屋市中央卸売市場

10月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	26年	488	302	366	320	304	宮崎 36%
	27年	549	228	267	236	252	鹿児島 30%
	28年	394	584	631	614	521	茨城 19%
	29年	381	602	691	615	510	高知 13%
	30年	628	415	556	411	330	岩手 2%
	5ヵ年平均	488	407	486	418	366	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	500	400	500	350	350	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
鹿児島、宮崎を中心に入荷する。鹿児島や宮崎などの西南暖地は作柄良好。大幅に増量した前年よりは少ないが、順調な入荷を見込む。茨城の秋作は11月中旬にはほぼ終了する見込み。 入荷量多かった前年を大幅に下回り、価格は前年をやや下回る見込み。							
白菜	26年	2,706	88	90	92	85	北海道 96%
	27年	2,685	97	99	99	98	長崎 4%
	28年	2,442	171	161	175	180	
	29年	2,446	106	99	109	108	
	30年	2,396	119	117	120	118	
	5ヵ年平均	2,535	115	112	118	117	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	2,500	85	85	80	90	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
北海道を中心に、長崎の秋作が一部入荷する。北海道は豊作傾向で残量が多く、貯蔵物も十分な数量があるため、市場の荷動きは鈍くなる見通し。長崎は若干遅れ気味となっている。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。							
たまねぎ	26年	5,908	77	81	80	78	北海道 99%
	27年	6,159	68	73	71	69	
	28年	6,351	67	70	69	66	
	29年	7,322	74	75	81	73	
	30年	6,064	95	96	99	93	
	5ヵ年平均	6,361	76	79	80	76	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	6,500	75	75	75	75	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
北海道からほぼ全量を入荷する。前年は天候不順等で入荷減となり価格が高騰したが、本年は豊作傾向。北海道の各産地ともに生育順調で、潤沢な入荷を見込む。階級はL大中心となるか。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。							

東京都中央卸売市場

10月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	26年	1,798	304	334	291	289	茨城 56%
	27年	1,901	262	292	241	250	宮崎 20%
	28年	1,723	556	584	601	496	高知 11%
	29年	1,592	616	661	637	559	鹿児島 7%
	30年	2,001	421	519	396	345	岩手 5%
	5ヵ年平均	1,803	424	472	424	380	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	1,800	390	400	390	380	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城を中心に、宮崎、高知からの入荷となる。主力の茨城は一部施設で台風被害を受けるも、平年並の入荷が見込まれる。宮崎、高知は入荷のピークにむかう。 入荷量は前年をかなり下回り、価格も前年をかなり下回る見込み。</p>					
白菜	26年	7,633	91	91	91	90	北海道 97%
	27年	7,069	98	100	96	97	長崎 2%
	28年	7,235	170	161	169	181	
	29年	7,453	103	100	102	108	
	30年	6,209	121	119	124	121	
	5ヵ年平均	7,120	116	114	116	119	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	7,400	85	85	85	85	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道からの入荷がほとんどを占める。6月の天候不順で不作となった前年とは一転し、道内各産地ともに豊作基調。入荷は計画的に進められるが、在庫を背景に価格は平年を割り込むと見込まれる。 入荷量は小玉となった前年を大幅に上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					
たまねぎ	26年	10,767	82	81	81	84	北海道 95%
	27年	9,265	73	75	73	73	中国 5%
	28年	10,732	74	75	73	73	
	29年	11,577	82	79	82	85	
	30年	9,818	107	104	108	111	
	5ヵ年平均	10,432	83	83	83	85	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	10,500	80	80	80	80	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道からの入荷がほとんどを占める。豊作基調で潤沢な入荷が見込まれる。これまでの台風等の影響で輸送に不安あることから、場合によっては入荷への影響が出る可能性も予想される。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

10月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	26年	11,560	256	238	268	270	静岡 16%
	27年	10,847	282	278	285	297	岐阜 14%
	28年	10,314	314	317	316	316	フィリピン 10%
	29年	10,235	307	285	319	330	長野 10%
	30年	10,475	299	311	304	296	愛知 9%
	5カ年平均	10,686	291	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	10,200	310	—	—	—	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	みかん、かき、りんごなどが主な品目となる。台風19号の影響は、みかんやかきでは少ない。りんごは長野の一部で被害を受けたが、主力産地への影響は少なく、平年並からやや少ない程度の入荷となるか。入荷量はわずかに下回り、価格は前年をやや上回る見込み。						
み	26年	4,311	167	155	180	167	静岡 38%
	27年	3,709	224	247	220	213	熊本 17%
	28年	4,077	259	276	269	244	和歌山 17%
	29年	3,829	271	243	286	285	愛知 14%
	30年	4,263	229	258	239	206	三重 7%
	5カ年平均	4,038	229	235	238	222	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	4,000	260	260	260	260	
みん	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	静岡を中心に、熊本、和歌山、愛知などから入荷する。入荷が本格化する早生系は猛暑等の影響は少ないものの、裏年のため平年並からやや少ない入荷となる見込み。その分相場は強めとなるか。入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。						
か	26年	2,416	226	224	236	240	岐阜 71%
	27年	2,491	238	219	245	257	愛知 12%
	28年	2,380	277	265	269	291	和歌山 8%
	29年	2,285	269	244	282	282	三重 7%
	30年	2,032	265	246	276	274	長野 1%
	5カ年平均	2,321	254	239	261	268	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	元年見通し	2,200	260	240	270	270	
かき	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	岐阜を中心に愛知、和歌山などから入荷する。前年は台風の影響等で入荷量が減少した。岐阜は前年より増量するが、着色が遅れており、平年に比べると11月は少ない入荷となる見込み。入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年並となる見込み。			注：本年の6月は入荷なしにつき単価を0円/kgで表記			

東京都中央卸売市場

10月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	26年	45,734	268	259	267	278	愛媛 18%
	27年	44,022	296	277	295	316	長崎 10%
	28年	44,604	332	352	322	315	熊本 9%
	29年	46,108	316	292	315	340	和歌山 9%
	30年	42,493	329	322	323	341	青森 8%
	5ヵ年平均 元年見通し	44,592 41,600	308 310	— —	— —	— —	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			数量 t			単価 円/kg
	みかん、りんご、かきなどが入荷する。りんごは台風19号による被害が一部あるも全体としては軽微な影響に留まる見込み。いちごも台風の影響により定植・生育遅れがみられるが、月末には各産地出揃うか。入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年をやや下回る見込み。						
みかん	26年	20,513	201	193	209	200	愛媛 33%
	27年	20,495	244	246	247	239	長崎 19%
	28年	21,222	289	254	239	238	熊本 17%
	29年	21,584	270	245	275	281	和歌山 14%
	30年	21,334	273	286	275	262	静岡 6%
	5ヵ年平均 元年見通し	21,030 20,500	256 260	245 260	249 260	244 260	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			数量 t			単価 円/kg
	愛媛、長崎、熊本を中心に入荷する。10月の極早生は長雨の影響で数量減・低糖度傾向となった。11月からの早生は各産地で着色遅れがみられ、月の後半から入荷増となる見込み。入荷量、価格はともに前年をやや下回る見込み。						
かき	26年	7,278	213	209	209	229	愛知 15%
	27年	6,776	212	185	226	246	新潟 14%
	28年	7,370	270	274	251	272	奈良 14%
	29年	7,452	243	237	249	246	福岡 13%
	30年	6,063	248	248	240	260	岐阜 10%
	5ヵ年平均 元年見通し	6,988 7,000	237 240	231 240	235 240	250 240	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			数量 t			単価 円/kg
	新潟の平核無は台風の影響による落果や擦れで微減となるか。岐阜産の富有、愛知産の次郎は予想以上に気温が高かったせいか着色遅れがみられる。11月全体からみたピークは中旬になる見通し。入荷量は前年をかなり上回って平年並となり、価格は前年をやや下回る見込み。						

注：前年の4月は入荷なしにつき単価を0円/kgで表記

切花・鉢花の11月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 10月30日現在）

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ	実績	26年	1,660	44	
		27年	1,875	37	
		28年	1,826	45	
		29年	1,713	50	
		30年	1,508	40	
	5ヶ年平均		1,716	43	
	元年見通し		1,600	45	
概要	愛知、三重、沖縄から入荷する。上旬は夏菊の最後の出荷が固まり、上位等級中心の出回りとなる見込み。下旬には落ち着いた入荷となる見込み。				
小 ぎ	実績	26年	808	34	
		27年	980	20	
		28年	753	30	
		29年	732	39	
		30年	739	29	
	5ヶ年平均		802	30	
	元年見通し		750	30	
概要	愛知、奈良、沖縄から入荷する。沖縄の生育は良好で3色が揃ってくる。愛知、奈良はともに生育が遅れているところがあり、入荷量は順次増加してくると思われる。				
カー ネ ー シ ョ ン	実績	26年	1,024	37	
		27年	1,144	29	
		28年	1,052	35	
		29年	1,021	46	
		30年	1,204	38	
	5ヶ年平均		1,089	37	
	元年見通し		1,100	38	
概要	愛知、長野、北海道から入荷する。今季は夏場からの少し高め気温により全体的に前倒しで推移しており、10月にまとまった出荷があった。11月は大きな山がなくダラダラとした出荷で、価格は冬の気温になれば安定してくる。				
か す み	実績	26年	157	75	
		27年	175	54	
		28年	96	159	
		29年	133	125	
		30年	102	120	
	5ヶ年平均		133	99	
	元年見通し		110	115	
概要	高知、和歌山、熊本から入荷する。福島は上旬には終了する。西南暖地では台風の被害はなく、中旬にはまとまった数量になる。上旬は単価高、中旬からは軟調が予想される。				

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆり	実績	26年	292	158	
		27年	307	152	
		28年	262	202	
		29年	273	192	
		30年	268	178	
	5ヶ年平均		280	175	
	元年見通し		270	175	
概要	<p>オリエンタルは高知、宮崎、新潟、埼玉から入荷する。高冷地と暖地の産地が重なり、需要期でもないため、販売は苦戦する見込み。鉄砲は高知、鳥取からの入荷。鳥取は下旬には終了予定。高知は台風の被害がややあったが、大きな影響はないと思われる。LAは埼玉、高知からの入荷。作付けは平年並で、ほぼ平年作の展開となる見込み。</p>				
洋らん	実績	26年	490	75	
		27年	499	62	
		28年	515	78	
		29年	463	82	
		30年	503	69	
	5ヶ年平均		494	73	
	元年見通し		500	70	
概要	<p>国内物や輸入物が入荷する。シンビジウムは徳島中心となり、輸入物は減少する。オンシジウムは大井川、台湾産中心となる。デンファレはタイ、シンガポール産を中心に沖縄産も入荷する。胡蝶蘭は鹿児島中心に輸入物も入荷する。カトレアは愛知中心に静岡産も入荷する。</p>				
ばら	実績	26年	838	85	
		27年	817	77	
		28年	851	84	
		29年	780	92	
		30年	772	76	
	5ヶ年平均		812	83	
	元年見通し		800	80	
概要	<p>愛知、岐阜、三重中心の入荷となる。夜温も下がり、品質がかなり良くなってくる時期となる。前半は入荷量も増加してくる見込みだが、後半は落ち着くか。ブライダル需要に期待する。</p>				
枝もの	実績	26年	1,550	44	
		27年	1,469	45	
		28年	1,502	46	
		29年	1,542	52	
		30年	1,396	54	
	5ヶ年平均		1,492	48	
	元年見通し		1,450	50	
概要	<p>静岡、長野、岐阜を中心に入荷する。クリスマス花材のブルーアイス、ブルーバード、ヒムロ類の引き合いは強くなる。サンゴミズキの一本棒で安くてリース台にできるもの、晒しの三又などの業務需要も高まる。</p>				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ドラセナ類	実績	26年	11,524	782	
		27年	11,889	815	
		28年	11,133	719	
		29年	10,437	826	
		30年	12,114	753	
	5ヶ年平均		11,419	778	
	元年見通し		11,000	818	
概要	<p>入荷量は前年よりかなり減少するか。全体の価格低迷と、輸入原木の高騰もあり、今後中鉢・大鉢中心に作付けが減少する見込み。ドラセナ類中心に品薄になる見込み。 前年11月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(64.7%)、2位鹿児島(16.0%)、3位三重(7.9%)となっている。</p>				
シャコバサボテン	実績	26年	36,572	404	
		27年	35,681	435	
		28年	38,321	454	
		29年	34,066	428	
		30年	41,212	415	
	5ヶ年平均		37,170	427	
	元年見通し		40,000	400	
概要	<p>入荷量は6号以上のサイズは前年並だが、4号中心に5号以下が少ない見込み。作付けの減少と7月の天候が影響している。6号は相対率が上がるため、6号以下のサイズが品薄になる見込み。7号以上は前年並の価格と厳しい見通し。 前年11月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(82.8%)、2位埼玉(10.6%)、3位茨城(5.0%)となっている。</p>				
シクラメン	実績	26年	850,000	271	
		27年	806,976	282	
		28年	704,910	285	
		29年	847,072	271	
		30年	750,854	289	
	5ヶ年平均		791,962	279	
	元年見通し		750,000	288	
概要	<p>入荷量は前年並か。4号は出荷が早く終わるとも思われるが、5号は遅れ気味で中旬以降がメインの出荷になるとみられる。ガーデンシクラメンは前年に比べ作付け量が減少傾向となる見込み。 前年11月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(31.6%)、2位長野(18.3%)、3位群馬(7.3%)となっている。</p>				

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
シンビジュウム	実績	26年	61,199	2,198	
		27年	60,154	1,980	
		28年	51,430	1,977	
		29年	43,650	2,399	
		30年	44,723	1,898	
	5ヶ年平均		52,231	2,086	
	元年見通し		43,000	1,860	
概要	<p>入荷量は前年よりやや減少するか。相場の低迷、高齢化により生産量が減少している。また年々11月の気温が上がっており、販売状況も鈍くなっている。水が切れると花持ちが著しく悪くなったり、蕾が咲かない原因になる。水を2～3日おきに鉢の底から出るくらいかけていただきたい。</p> <p>前年11月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（57.2%）、2位高知（11.4%）、3位徳島（8.6%）となっている。</p>				
カランコエ	実績	26年	33,754	174	
		27年	34,214	150	
		28年	29,780	188	
		29年	33,287	161	
		30年	27,516	186	
	5ヶ年平均		31,710	171	
	元年見通し		27,000	185	
概要	<p>入荷量は前年並か。夜温が下がり回復してきているが、今期も9月の残暑の影響が出ており、生産レベルでロスが発生している。価格面では例年どおり中値安定での取引になる見込み。</p> <p>前年11月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位岐阜（53.1%）、2位埼玉（38.9%）、3位福岡（3.6%）となっている。</p>				
パンジー	実績	26年	990,934	41	
		27年	978,611	43	
		28年	812,441	54	
		29年	915,671	50	
		30年	911,667	50	
	5ヶ年平均		921,865	47	
	元年見通し		910,000	49	
概要	<p>入荷量は前年並、もしくはやや減少するか。11月中旬から下旬は前年並の見込み。明るい配色で、株揃いの良いものを希望する。</p> <p>前年11月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（35.9%）、2位奈良（16.9%）、3位三重（11.9%）となっている。</p>				



いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.557
令和元年11月発行
農業水産局農政部食育消費流通課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6434